

1、本講義概要：後期近代における公共交通と路面電車——北海道教育大学国際地域学科の「地域プロジェクト」PBL（課題解決型学習）に関する報告書

本講義は、「後期近代の時代精神と地域内の公共的人員交通における路面電車の役割——その延伸の可能性と不可能性に関する実証的考察」を担当している。

2、本講義のシラバス

本プロジェクト（2017年度後期、2018年度前期）は、宇都宮市路面電車の新設過程を考察対象にした。もっとも、路面電車ルネサンスに関する考察する前提として、講義の開始前に、函館市電の全線乗車を学生全員が実施した。

2017年度後期において、宇都宮市電に関する文献を読解することに主眼をおいた。春休みには、宇都宮市路面電車の延伸計画場所を訪問した。2018年後期には、6月に開催される講演会を準備した。

3、成果

新幹線宇都宮駅周辺の宇都宮市中心街は、宇都宮市東部と芳賀町にある工業団地と15kmほど離れている。この区間を路面電車で結ぶため、宇都宮市電が建設されようとしている。この予定線の終点周辺には、本田技研、キャノン等の大規模工場、テクノポリス等が林立している。また、沿線には、作新学院大学、青陵高校等の文教施設、サッカーJ2の公式スタジアムである栃木県グリーンスタジアム、宇都宮清原球場、体育館等のスポーツ施設も数多い。また、この沿線では小中学校のクラスの増設が相次いでいる。若年労働力人口も、この地域に多く居住している。

中心街から工業団地を結節している片側二車線の道路は、朝夕にはかなり渋滞していた。また、サッカー公式戦開催日等のイベントが開催される日には、その渋滞が加速された。宇都宮市電の建設が、このような事情で構想された。そして、その工事施行が、2018年3月に国土交通省によって認可された。その構想から数えて約半世紀を必要としていた。これまでの交通政策担当者の唯一の政策は、道路を拡幅するか、あるいは迂回路として高速道路を新設することでしかなかった。宇都宮市、栃木県そして国土交通省はこの常識を覆す政策を採用した。この意味を政治思想史的観点から考察した。学生の今後の政策課題への接近に資するであろう。

このような成果を以下の形で、地域社会に還元した。すなわち、6月25日に市民公開講座として、宇都宮市の路面電車ルネサンスに関する講演会「交通縮減の思想——路面電車ルネサンスとしての宇都宮市電に関する政治思想」を実施した。第1部を学生が報告し、第2部を教員が報告した。学生4人がそれぞれ責任者となり、4項目を分担して発表した。発表後、かなり真剣な討議を重ねた。

なお、この模様は、『函館新聞』と『北海道新聞』において報道された。報道されて初めて、本地域プロジェクトが地域社会において認識された

4. 総括

1. 宇都宮市は、今世紀になって日本において唯一、路面電車の軌道を新設した。
2. 函館市において路面電車が残存している。しかし、初期近代において形成された路線網は大幅に縮小されている。1978年にガス会社前—国鉄五稜郭駅前間、1992年に宝来町—松風町間、1993年には函館駅前—ガス会社前—電停五稜郭間が廃止された。現在の総延長距離は10.9kmでしかない。しかし、路面電車の延伸構想はつねに議論の対象になっている。その可能性と不可能性について、講義において考察する。
3. 函館市もまた、縮小する都市に属している。2004年に旧4町村（戸井町、恵山町、楳法華村、南茅部町）と合併することにより、30万人都市になり中核市の要件を充足した。しかし、2040年、すなわち25年後には20万人を切ることがほぼ確実とされている。この危

機的状況、すなわち 30 万人都市から 20 万人都市への移行において、地域内の公共的
人員交通の問題は、様々な観点から考察されている。同様な体験を 21 世紀に体験した宇都宮市
のモデルは、参考になろう。人口減少時代における路面電車の延伸である。

4. このような問題を設定した。回答は、この問題設定の内にあるが、函館市にはまだその
前提条件が実現されていない。

5、地域からの評価

また、路面電車の報告会において、函館財界の重鎮と路面電車に関して造詣の深い人々か
ら函館の路面電車の延伸に関する根源的助言をうけた。また、地元の新聞社の取材をうけ、
その模様が紙面に反映した。それ自体が、地域社会からの評価である。

6、参加者一覧

担当教員

田村伊知朗（地域協働専攻・地域政策グループ 教授）

担当学生（地域政策 3 年）

6244 清水宏誠

6250 平田幹太

6264 明石健太郎

6266 中澤郁充

田村教授が宇都宮市の路面電車ルネサンスに関する講演会を開催しました 2018年7月3日



平成 30 年 6 月 25 日（月）、函館校第 1 講義室で講演会「交通縮減の思想——路面電車ルネサンスとしての宇都宮市電に関する政治思想」を開催しました。当日は、学生 4 人が宇都宮市の路面電車ルネサンスの概要について発表しました。その後、田村伊知朗教授によって、昨年度の富山市の路面電車ルネサンス報告に基づき、「宇都宮市の路面電車ルネサンスが、富山市のそれを凌駕していること。まさに、本邦の路面電車ルネサンスの精華というべきであり、ドイツの路面電車ルネサンスに匹敵する構想であること。」が再検証されました。

本講演会は、『函館新聞』⁽¹⁾、⁽²⁾と『北海道新聞』⁽³⁾で紹介され、函館市の公共政策、都市政策そして交通政策に影響力を持つ数人の市民が参加しました。また、函館市の路面電車の延伸の可能性に関しても、有益な助言をいただきました。

(1)『函館新聞』2018年6月25日、第12面参照。

(2)『函館新聞』2018年6月26日、第14面参照。

(3)『北海道新聞・夕刊（函館版）』2018年7月5日、第11面参照。

（本学ホームページより）



路面電車新設予定地

